

脳神経外科

部長 林 悟

診療体制

2023年は林、西本（陽央）、西本（祥大）、松岡、梁瀬、新野の6人体制で診療にあたった。

診療実績

入院患者数と脳卒中患者数：2020年に軽症頭部外傷を救急科が担当してくださるようになり、入院患者数は491例に減少し、2020年以降はほぼ同数の入院患者数であったが、2023年は693例に増加した（図1）。前年はコロナ禍で病院全体の救急受け入れ制限があり入院患者数が伸び悩んだが、コロナ禍前を超える入院患者の増加であった。脳梗塞症例は脳神経内科と脳神経外科で担当し、脳出血とクモ膜下出血の出血性脳卒中は全て脳外科が担当している。当科に入院した脳卒中患者数は415例であり、入院患者数の約60%が脳卒中であった。2023年は脳出血、くも膜下出血、脳梗塞いずれも増加したが、特に脳梗塞患者が増加した（図2）。

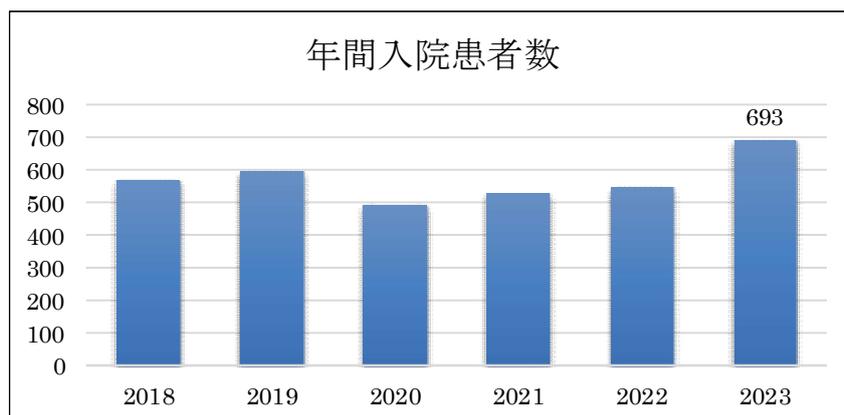


図1 年間入院患者数

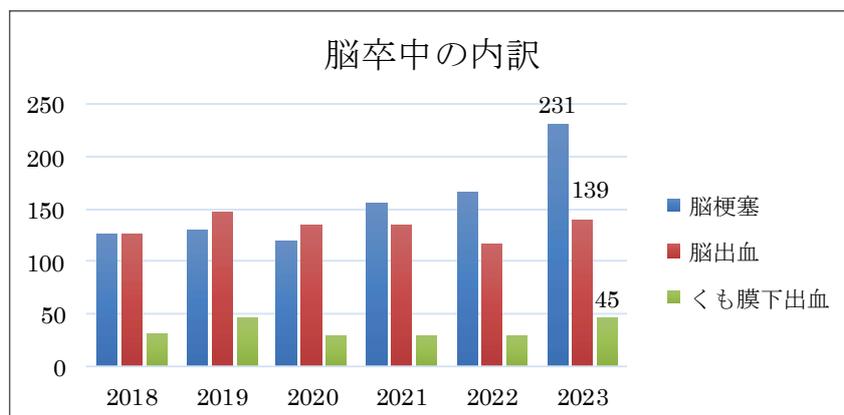


図2 脳卒中の内訳

手術件数：2022年は228件と大きく手術件数が落ち込んだが、2023年はコロナ禍前を超える手術件数であった（図3）。手術症例の内訳は例年通り、脳卒中と外傷がほとんどであり（表1）、救急疾患が多い当科はコロナ禍で大きく影響を受けたが、2023年は救急の受け入れ制限がなくなり手術件数が増加したと考えられる。また、一次脳卒中センター・コア施設に認定されたことも症例増加の要因の一つと思われる。急性期脳主幹動脈閉塞病変に対する血管内再開通療法も63件と増加した（表1、図4）。

tPA治療と血管内再開通療法：脳梗塞急性期治療であるtPA投与件数は73例であり、ここ数年は50例前後で推移していたが過去最多であった。tPA適応と判断される症例はほぼ実施されていると思われる（図4）。今後もtPA治療が必要な患者さんを迅速に紹介していただけるように、地域連携を進める必要があると感じている。

2020年8月から医療用コミュニケーションアプリ“Join”を導入し、脳卒中の急性期治療に関わる複数のメンバーとリアルタイムに情報をやりとりできるようになった。画像も送ることができ、カテーテル検査室の準備の状況や治療の進捗状況などもわかり時間短縮に役立っている。

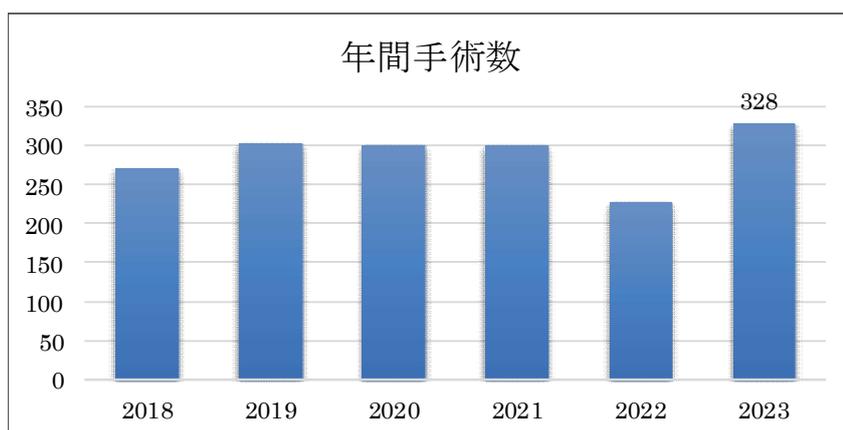


図3 年間手術件数

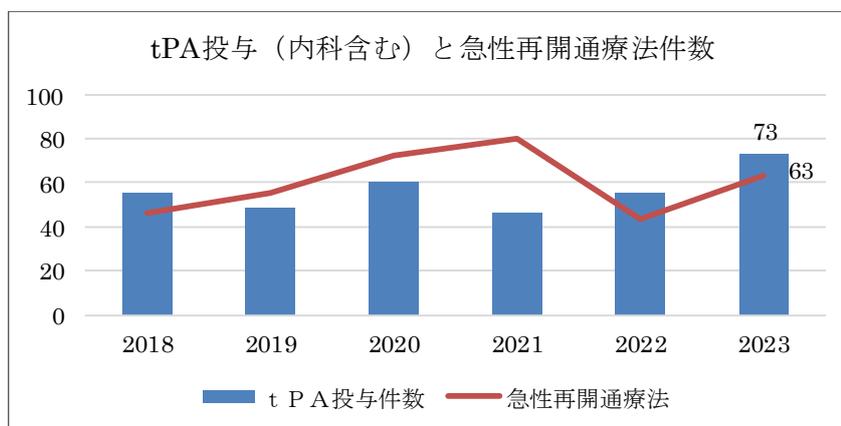


図4 tPA投与と急性再開通療法

表1 手術症例の内訳

2023年 手術症例

脳腫瘍：摘出術	4
脳腫瘍：生検術（開頭術）	0
脳腫瘍：生検術（定位手術）	0
脳腫瘍：経蝶形骨洞手術	0
脳血管障害：破裂動脈瘤	22
脳血管障害：未破裂動脈瘤	10
脳血管障害：脳動静脈奇形	0
脳血管障害：頸動脈内膜剥離術	12
脳血管障害：高血圧性脳内出血（開頭血腫除去術）	3
脳血管障害：高血圧性脳内出血（内視鏡下血種除去）	14
脳血管障害：その他	29
外傷：急性硬膜外血腫	5
外傷：急性硬膜下血腫	21
外傷：慢性硬膜下血腫	52
外傷：その他	7
水頭症：脳室シャント術	24
水頭症：内視鏡手術	0
血管内手術：動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	17
血管内手術：動脈瘤塞栓術（未破裂動脈瘤）	6
血管内手術：閉塞性脳血管障害の総数	72
血管内手術：（上記のうちステント使用例）	11
血管内手術：その他	11
その他	19
合計	328

治療設備ほか

ハード面においては、IVR-CTにて難易度の高い血管内治療もより安全に行うことができ、ICG（インドシアニングリーン）蛍光血管造影が可能な顕微鏡、神経内視鏡、ナビゲーション、MEPなどのモニタリングを適宜使用して、より安全な手術も心がけている。

一次脳卒中センター・コア施設に認定され、また6人体制になり理想的な診療体制になりつつある。医師の働き方改革も考えながら、常に救急患者を受けられる体制を整えたい。脳神経外傷学会の認定研修施設にもなっており、特に脳卒中と頭部外傷の診療の質を高め、高知県の次世代の脳外科医

を育成することを目標に、2024 年度も診療にあたりたい。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
瘤内自然血栓化の7年後に部分再開通と増大をきたした未破裂中大脳動脈末梢部血栓化動脈瘤の一例	奥根 亨也 梁瀬 瑛蘭、松岡 溪太、西本 祥大、西本 陽央、林 悟	STROKE2023	3月16日 -18日 横浜
M2 閉塞に対する機械的血栓回収療法の治療成績の向上	西本 陽央 梁瀬 瑛蘭、奥根 亨也、松岡 溪太、西本 祥大、林 悟	STROKE2023	3月16日 -18日 横浜
COVID-19 の回復期に発症した潜因性脳梗塞の原因として椎骨動脈壁の炎症性変化が疑われた一例	林 悟 新野 健、梁瀬 瑛蘭、松岡 溪太、西本 祥大、西本 陽央	第 39 回 日本脳神経血管内治療学会学術集会	11月23日 -25日 京都
機械的血栓回収療法を施行した僧帽弁輪乾酪石灰化による脳塞栓症の1例	西本 祥大 新野 健、梁瀬 瑛蘭、松岡 溪太、西本 陽央、林 悟	第 39 回 日本脳神経血管内治療学会学術集会	11月23日 -25日 京都
ゴアテックス人工硬膜感染による硬膜外膿瘍に対し、ゴアテックスを除去せず経皮的ドレナージで治療した一例	梁瀬 瑛蘭 新野 健、松岡 溪太、西本 祥大、西本 陽央、林 悟	第 96 回日本脳神経外科学会中国四国支部会	12月2日 徳島

論文発表

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Vertebral artery wall inflammation suspected as the cause of cryptogenic ischemic stroke developing during the recovery period of COVID-19	Satoru Hayashi ¹ , Yo Nishimoto ¹ , Yongran Yanase ¹ , Yukiya Okune ¹ , Keita Matsuoka ¹ , Shota Nishimoto ¹ , Koji Hosoda ² and Masatoshi Negishi ³	The Neuroradiology Journal	Vol.0(0) 1-6